

# 土壌は語ってる

森林の見方変わる

森林土壌調査等講習会

(関東森林管理局 森林技術・支援センター)

平成27年6月23日(火)～24日(水)、当センター主催の森林土壌調査等講習会を実施しました。当日は、茨城森林管理署職員8名と当センター職員4名の12名(その他森林総研1名が聴講)が参加して行われました。

最初に、当センターの研修室で土壌調査の必要性やその方法などについての講義を受けた後、近くの国有林で土壌調査を実施しました。

講師には、平成17年度に我が関東森林管理局を定年退職され、現在、(株)興林北関東支店環境調査部長の要職にある長島成和氏(立地学会、日本林業技士会、日林協会員)にお願いしました。

野菜は、適地を誤っても次の年に場所を変えることが可能ですが、樹種は、一度適地判断を誤ると成林の見込みを失ったり、収穫量の大幅なダウンにつながります。判断を誤らないようにするためには、土壌の性状を把握してその土壌に合った樹種を選択しなければなりません。



冒頭、講師から「みなさんは、この講習会で全てを覚えようとしても無理です。『土壌というものはどういうものか』という基本的な話に止めることとします。配布した資料は後日一読して下さい。机上の講義だけでは

覚えられません。実際に穴を掘って、見て、描いて、触れるてみないと覚えません。」と



の話があり、室内での講義は1時間で終了。23日の午後から24日の午前中はもっぱら穴掘り(土壌調査)に専念しました。

土壌調査は、3人1組で実施。それぞれ違った場所で60cm~1mの穴を垂直に掘り、その断面の層別別の厚さ、色、土性、構造、堅密度、水湿状態、根等の状況を調査して、土壌型を決定します。そして、この場所では「どういう樹種が適切か」

を判定という流れに……。実際にやってみるとなかなか難しい。特に、地層の境目や構造(団粒状、粒状、細粒状など)の判別は難しく、知識と経験の必要性を強く感じさせられました。2日目の場所では、僅かな土の色の変化を見逃さず、「この場所は、3回の土砂崩れが発生している。」と指摘。参加者全員が絶句!ビックリさせられました。

講師のユーモラスな講義や土壌断面からの適切な判断と指導をして頂きました。

ほとんどの参加者が、土壌に関する講義や研修を受けたことがなかったことから、「森林の見方が変わった」「今後、森林施業に役立たい」などの意見も。今回の講習会は、ほんの「入り口」かも知れませんが、今後の森林施業に役立つ有意義な内容でした。



講師をして頂いた長島先生には、7月中旬から日中緑化交流基金首席研究員として中国へ出張されるとのこと。健康に留意して元気で帰国されることをお祈り申し上げますとともに、引き続きのご指導を頂ければ幸いです。

(担当：業務係長)